



日本赤十字社
台南地震復興支援事業
台灣南部地震救援金第 2 回送金にかかる報告書
2017 年 4 月～2018 年 5 月

台灣赤十字組織

住所：303 Bangka Blvd., Wanhua District, Taipei City 10855, Taiwan

電話番号：886-2-2362-8232

Fax 番号：886-2-2363-5154

目次

I.	事業背景.....	2
II.	事業活動成果.....	3
III.	救援金の使途.....	8
IV.	写真.....	11
V.	被災者の声.....	16

日本赤十字社
2月6日台南地震復興支援事業
第2回資金協力にかかる報告書
2017年4月7日～2018年5月30日

I. 事業背景

2016年2月6日午前3時57分に台湾南部でマグニチュード6.4の地震が発生しました。震源の深さは16.7km、屏東県（高雄市美濃区）北東27.4km地点。地震により台南市、高雄市、屏東県、嘉義県、嘉義市が被災し、117名が死亡、550名が負傷しました。

被災した人々は様々な影響を受けており、それら多様なニーズに対応するため、台湾赤十字組織は支援策を策定し、犠牲者家族及び負傷者への見舞金の支給、医療、介護、四肢切断・リハビリ等への補助金の支給をはじめ、震災により親を失った子供たちへの教育支援、再定住支援、家庭用品の配布、緊急支援などを行いました。

台湾赤十字組織は日本赤十字社（以下、日赤）から2017年4月7日付で台湾南部地震救援金第2回資金協力総額2億9,000万円を受領しました。同日の新台幣ドル（TWD）換算レート（1円＝0.2766TWD）で、80,214,000新台幣ドル相当になりました。

日赤からの要望により、第2回資金協力によって受領した資金は台湾南部地震被災者支援及びモバイルホスピタル（移動診療所）の設置に充当されています。

II. 事業活動成果

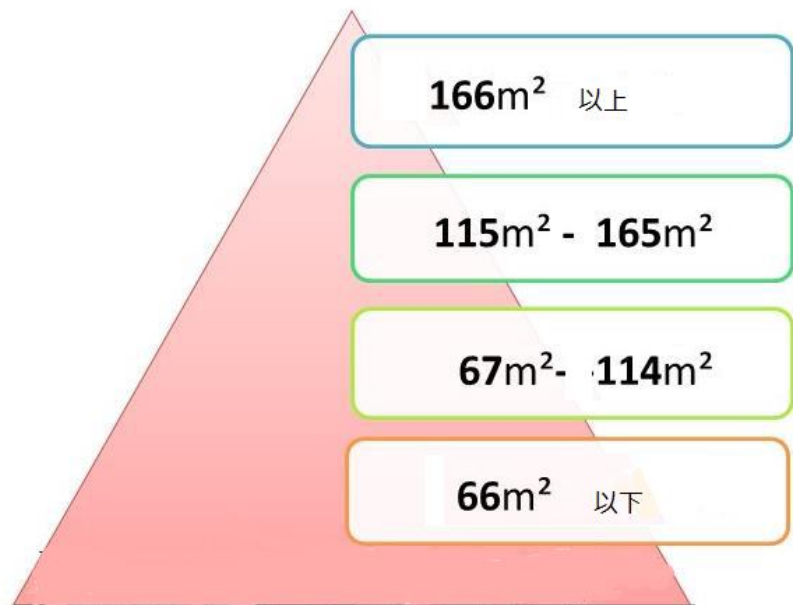
A. 住宅再建にかかる補助金

72世帯が補助金の支給を受けました。支給総額は44,050,000新台幣ドルです。詳細は以下のとおりです。

1. 受給要件

- a) 2016年2月6日に発生した台湾南部地震により家屋が倒壊・取り壊され、地震発生時に他の家屋の所有がなかった世帯
- b) 台湾南部地震により家屋の所有者が死亡した場合、補助金は家屋所有者の配偶者に支給されます。所有者と配偶者がともに死亡した場合、補助金は一親等の親族に支給されます。
- c) 同一の家屋に複数の世帯が居住している場合、補助金は1世帯のみに支給されます。
- d) 建物所有者証もしくは建物登記にある総面積に基づき、補助金は以下の基準に則り配分されます。

補助金配分にかかる建物総面積の基準



同一の建物に複数の世帯が居住している場合は、補助金は1世帯のみに支給。

カテゴリ	被災家屋の建物面積	1世帯あたりの補助金額	支給世帯数	補助金支給額
1	166m^2 以上	750,000	5	3,000,000
2	$115\text{m}^2 - 165\text{m}^2$	700,000	6	4,200,000
3	$67\text{m}^2 - 114\text{m}^2$	650,000	51	31,850,000
4	66m^2 以下	600,000	8	4,800,000
5	その他	100,000	2	200,000
Total			72	44,050,000

72世帯のうち、カテゴリ1に該当する2世帯及びカテゴリ3に該当する4世帯は、倒壊した家屋に加え、親族から別の家屋の一部を相続していましたが、全体所有権なしでは相続した家屋に居住することができずにいたため、1世帯あたり、通常の補助金額の半額相当分の支給が決定されています。

さらには、カテゴリー5に該当する世帯では特別な事例が2件ありました。

その中のひとつの事例は、家屋の前所有者の死亡により、所有者が家屋移転登録手続きを完了できなかったため、建物所有証または建物登録証明書を提出することができなかった事例です。

もうひとつの事例は、家屋所有者が家庭内暴力の被害者で、配偶者の不動産書類を提出することができなかった事例です。両事例とも補助金の申請に必要な要件を満たしていませんでしたが、台湾南部地震により家屋が倒壊したこと、他に居住する家屋を所有していなかったことを考慮し、台湾赤十字組織は両者に各10万新台幣ドルの補助金の支給を決定しました。

B. 貧困世帯への生活補助金

74世帯が補助金の支給を受けました。支給総額は5,929,000新台幣ドルです。詳細は以下のとおりです。

1. 脆弱な被災世帯への必要最低限の生活支援

2月6日の台湾南部地震における被災世帯で、低所得、低・中所得、その他、社会福祉支援を受ける要件を満たしていた世帯は12か月間分の生活手当を受けることができます。

	支給理由	支給額	世帯数	支給総額
1	低所得世帯	480,000	3	1,440,000
2	低・中所得世帯	360,000	3	1,080,000
3	子どものいる貧困世帯	240,000	4	960,000
4	高齢者で低収入生活補助を受けている世帯	240,000	1	240,000
5	身体の不自由な人のいる世帯	240,000	6	1,440,000
6	特別な境遇にある世帯	240,000	1	240,000
	Total		18	5,400,000

2. 被災地域への緊急手当

緊急手当とは、地震の被災地に居住している個人または世帯で、緊急事態（災害、事故、重病など）に遭遇し、生活維持が難しい場合、その経済的救済を目的として策定されました。

世帯における扶養家族人数、親戚・友人、社会保障制度による経済的支援、緊急を要する経費を考慮して、緊急性とニーズのレベルを調査後、台湾赤十字組織は一回限りで 3,000 新台幣ドルから 2 万新台幣ドルの緊急手当を支給します。台湾赤十字組織は全体で 56 世帯に総額 529,000 新台幣ドルの支援を行いました。

C. モバイルフィールドホスピタル（移動診療所）の資機材の寄贈について

1. 目的

将来の国内外の緊急医療サービスの人道的ニーズに対応するため、世界保健機関（WHO）緊急医療チーム（EMT）のタイプ 1 の基準に沿った移動診療所の資機材を寄贈しました。

2. 寄付方法

台湾赤は移動診療所の資機材を 2 セット購入し、国内外の災害に対応可能な台湾緊急医療チーム（TEMT）を創設するために国立成功大学付属病院に寄贈しました。

国立成功大学付属病院は平時においては訓練や防災プログラムを行い、災害発生時には緊急医療チームが資機材を活用し被災地で医療活動支援を行う予定です。

3. 資機材の詳細

移動診療所の資機材には、専門的な医療テント、仮設トイレ・入浴設備、水と電気供給システム、照明器具等の 29 種類の資機材が含まれており、トリアージや初期緊急医療処置を行うことができます。さらには、運搬移動用の車両も同様の目的で寄贈されています。

List of Equipment 資機材リスト

	Name of Equipment 品名	Quantity	Amount
1	Quick combination medical tent 医療テント	2	3,858,000
2	Emergency medical station multi-purpose tent 緊急医療多目的テント	2	2,512,000
3	Portable Health Care Unit 移動式医療ケアユニット	4	720,000
	Urine waste bags / 4ea*4 排尿バッグ	4	249,600
	Fecal waste bag group / 4ea*2 排便バッグ	2	196,000
4	Portable Double Shower Set 移動式シャワーセット	2	350,000
5	Portable water heater (including pump) 温水器	2	539,400
6	Portable three-slot washing table 移動式洗面台	2	386,600
7	Portable water collection bag 移動式水回収バッグ	2	173,000
8	Automatic water purification machine 自動浄水器	2	125,400
9	Disaster water purifier (motor type) 災害浄水器	1	1,300,000
10	Equipment transporter (3.5 tons) 資機材運搬機	1	1,072,000
11	Ball type round field lights フィールドライト	4	724,000
12	Examination table 検査台	4	30,000
13	Instrument vehicle 計器車	2	10,000
14	Autoclave 滅菌器	2	44,000
15	Plastic suture bag (including drape and sterile towel) プラスチックスツールバッグ(ドレープ、滅菌タオル)	16	61,600
16	Emergency suture bag (including drape and sterile towel) 緊急スツールバッグ(ドレープ、滅菌タオル)	16	
17	Mobile LED surgical lamp 移動式LED手術用ランプ	2	429,000
18	High frequency surgical knife 手術用ナイフ	2	864,000
19	Full-function cardiac defibrillator 心臓細動除去器	2	960,000
20	Mobile respirator 移動式呼吸器	2	321,000
21	Portable color ultrasonic ポータブルカラー超音波	2	1,661,000

Ⅲ. 寄付金の使途について

日赤からの第2回台湾南部地震救援金にかかる資金協力、2億9,000万円（2017年4月7日付換算レート1:0.2766は80,214,000新台湾ドル）は、事業計画どおり被災者の医療、住宅・生活などの支援、移動診療所の設置のために使われました。

しかしながら、被災者を対象にした住宅支援のニーズが当初の予測を下回ったこと、さらには、移動診療所の資機材購入にあたり実施した一般競争入札と価格交渉により、資機材の購入価格が減少したことにより、最終執行額は73,904,806新台湾ドルとなりました。未執行額は銀行利子も含めると6,592,131新台湾ドルになります。日赤第2回資金協力にかかる台湾南部地震事業収支報告書については9ページをご覧ください。

2016年の台湾南部地震発生から2年が経ち、復興支援事業は直接的な支援や他の支援もすべて完了しました。事業の未執行額は6,592,131新台湾ドル（平成30年6月30日現在、日本円23,916,800円相当）です。台湾赤十字組織は、国内、海外の様々な災害救援活動を経験し、平時から災害に備えておくことで発災時にはより良い対応ができると信じています。そのため、台湾全土に21の防災倉庫を設置し、搜索救助隊の編成と訓練を行い、学校と地域コミュニティの両方を対象に防災と災害への備えに関するプログラムを実施しました。

この経験をもとに、台湾赤十字組織は日赤から資金協力を受けた台湾南部地震救援金の剰余金（未執行額）を防災と災害への備えに関する知識と技術の普及、搜索救助隊の訓練、搜索救助隊のための資機材の購入及び災害対応と救援のための資金として使途することを日赤に要請し、2018年5月17日に承認を得ました。

これからも、台湾赤十字組織は人道支援の精神を胸に日赤との貴重な友好関係を大切に、今回日赤からいただいた貴重な資金を最大限活用していくと同時に、適宜報告書の提出を通じて説明責任を果たしていきます。

Program Performance Report

Currency: NTD

Project Item 事業項目	Content 事業内容	Budget 予算	Expenditure 支出	Balance 残額	Remark その他
住宅補助金	住宅補助金	48,300,000	44,050,000	4,250,000	72 世帯に補助金支給
貧困世帯を対象にした生活補助金	脆弱な被災世帯を対象にした補助金	6,000,000	5,400,000	600,000	18 世帯に補助金支給
	被災地への緊急手当	800,000	529,000	271,000	56 世帯に緊急手当支給
モバイルフィールド ホスピタル（移動 診療所）の資機材	資機材2セット （WHOの緊急医療チーム の基準に沿ったもの） 車両	18,000,000	17,258,015	741,985	
人件費	事業を実施するのに必要な 人件費	5,217,896	6,013,637	-795,741	
管理費	管理諸費、郵送費、通話 料金、出張費、監査費な ど	1,896,104	654,154	1,241,950	
Other income (Bank interest) 他収入（銀行利子）				282,937	
Total		80,214,000	73,904,806	6,592,131	

IV. 写真



2018年2月3日、台湾赤十字組織職員が国立成功大学において、住宅・生活支援補助金を申請した被災者に支給しました。手続きは順調に進みました。



台湾南部地震は旧正月の直前に発生しました。そのため、台湾赤十字組織は補助金申請に訪れた各被災世帯にお正月の贈り物を準備しました。



台湾赤十字組織職員は被災世帯の身分証明書を確認した上で、小切手を手交しました。



住宅支援の受益者リエン夫妻は日赤からの代表者に謝意を述べました。



被災者を代表して、リーさんとリウさんが日赤と台湾赤十字組織からの支援に感謝の気持ちを込めて、花束を贈呈しました。



新高雄支部のボランティアが救急法の重要性を伝えるため、ダンスと歌を披露している様子。



医療用テント



緊急医療ステーション 多目的型テント



移動式医療ケアユニット及び移動式ダブルシャワールーム



移動式温水器（ポンプを含む）



移動式洗面台



移動式集水バッグ



心臓細動除去器



移動式呼吸器



携帯型カラー超音波



3000W発電機



ハンドヘルド無線機



災害時の状況をシミュレーションし、医療デ
ントに様々な資機材が設置されている様子



浄水装置の検収・受領検査の様子



寄贈式において展示されている医療資機材の説明を行う様子



2018年2月3日、台湾赤十字組織は寄贈式を開催。日本赤十字社と台湾赤十字組織は将来の災害に備え、フィールドホスピタルを設置するために国立成功大学に医療資機材を寄贈しました。

V. 被災者の声

命を懸けた絶え間ない戦い：ホン・ジャイさん

2016年2月6日、台湾南部地震が発生した当日、ホン・ジャイさんは国立成功大学付属病院で緊急治療を受けました。両足が12時間もの間瓦礫の下敷きになり、重症を負って心停止になっていました。医療チームは、ホン・ジャイさんの命を助けるために最善を尽くしました。しかしながら、壊死した両足が深刻な横紋筋融解症を発生しており、医療チームは他に治療法がなくホン・ジャイさんの両足を切断せざるを得ませんでした。

ホン・ジャイさんは9か月間入院し、20回以上もの外科手術を受けました。ホン・ジャイさんは入院していた被災者の中で最後に退院しました。

ホン・ジャイさんの妻も13時間も瓦礫の中に閉じ込められて、両足、肋骨6本を骨折しました。ホン夫妻には生後4か月の男の子がおり、地震により軽度の脳挫傷を負いましたが幸いにも完全に回復しました。この大地震を振り返り、ホン夫妻は最悪の時は過ぎたと語ります。ホン・ジャイさんは集中治療室（ICU）に入院中、黒色に変色し壊死した足を見ることができず、両足を切断する決心がなかなかつきませんでした。幸運にも、ホン・ジャイさんの最愛の妻が、残りの人生をかけてホン・ジャイさんに寄り添い家族の世話をすると誓いました。

「切断手術を受けた後、自分の将来が不安でした。妻にたくさんのプレッシャーがかかるかもしれない。私に寄り添い続けてくれる妻に感謝しています。」と、ホン・ジャイさんは語ります。ホン・ジャイさんが最愛の妻について語る時、自信に満ちた微笑みがありました。



12月17日、ホン一家はクリスマス慰問活動に参加しました。

現在、ホン一家は家族とともに過ごす一瞬一瞬を慈しんでいます。家族にとって一緒に過ごすことが一番大切になっています。

震災から2年が経ち、ホン・ジャイさんは家では車椅子やスケートボードに座り自由に移動できます。ホン・ジャイさんの雇用主は怪我が回復後、デスクワーク業務を提供すると約束しています。しかしながら、ホン・ジャイさんは身体の下部に負った怪我により長い時間座れない状況のため仕事に復帰することは難しいようです。

人生には解決策があります。現在、ホン夫妻はインターネットで手作りのベビー用品を販売することで生計を立てています。ホンさんのウェブサイトにはホンさんが皆さんに伝えたいという次のような一文があります。

There is always an unforgettable setback in one's life.
It feels like that you get lost in the wood.
You might confuse or panic for a while.
In the end, light will guide you home.
Following that light and you will see where the happiness can be found.

人生にはいつも忘れられない挫折があります

それはまるで森の中で道に迷ってしまったかのようです

暫くの間、困惑したりパニックになったりするかもしれません

最後には光があなたを家に導いてくれるでしょう

光を辿っていくと、あなたは幸せに辿り着けるでしょう。

台湾赤十字組織は災害直後からホン・ジャイさんを支援し、住宅支援補助金を提供し支援を継続しました。

生存者：リ・ゾンディアンさん

リ・ゾンディアンさんは1年にわたり台南市から離れた場所で働き、旧正月を目前にしてご両親に再会したいと思っていました。しかしながら、旧正月前夜祭をひかえた夜に地震が発生しました。

リ・ゾンディアンさんは倒壊した建物に閉じ込められた時、救助隊が「リ・ゾンディアン、頑張れ。すぐに助けに行くから」と自分の名前を叫んでいるのを聞きました。救助隊の声は彼を勇気づけましたが、瓦礫に閉じ込められた状況下で意識を保つのは困難でした。



台湾赤十字組織の職員が国立成功大学付属病院に入院中の
ゾン・ディアンさんを訪問している様子

リ・ゾンディアンさんは複数の救助隊員に救助された夢を見ましたが、目が覚めるとまだ瓦礫の下にいることがわか

りました。彼は阿弥陀を唱え続け、最終的には56時間後に救出されました。リ・ゾンディアンさんは震災により家族を失い、さらには左足を失いました。

海外からの寄付金は負傷者お見舞金、介護のための資金支援、死別者お見舞金、切断再建費用、福祉資金としてリ・ゾンディアンさんに提供されました。

リ・ゾンディアンさんの実姉（結婚後、現在は別の地域に居住）は、震災後、リ・ゾンディアンさんに寄り添って世話をしました。彼女は国内外の人々からのご支援とお見舞いの言葉に感謝の意を表して、リ・ゾンディアンさんの負傷後のリハビリテーションの全過程を写真に記録し台湾赤十字組織に提出しました。記録には以下の言葉がありました。

“My brother has sensed your love.
Although future rehabilitation will be
long and hard,
He will be strong,
And do his best to give back to society.”

“私の弟は皆さんのお気持ちに感謝しています。
将来のリハビリテーションは長く辛いものになる
でしょうが、弟は強くなって、社会へ恩返しするた
めに一生懸命励むでしょう。”

リ・ゾンディアンさんの雇用主（マルチメディア
関連会社）はリ・ゾンディアンさんを雇い続けてい
ます。リ・ゾンディアンさんは仕事用に改良した4
輪バイクに乗って通勤し、足を切断したにも関わら
ず軽度の業務管理は依然として可能です。リ・ゾン
ディアンさんは台湾赤十字組織の温かい気遣いに
感謝しています。皆さんからの励ましの言葉と支援
は彼が人生を歩む上で大きな力となっています。

震災から2年が経ち、日赤のお陰で、リ・ゾンデ
ィアンさんは身体の不自由な人がいる世帯向けの
支援を受けることができました。また、様々なケア
と支援のおかげで、勇敢な生存者たちは、生活を取
り戻し、日々輝き続けています。



ゾン・ディアンさんは、台南クンシャンコミュニ
ティ活動センターでの台南地震中秋慰問に参加
しました。

